

広報

なんせい

第17号

発行 南西糖業株式会社 編集 総務部

〒891-7621

鹿児島県大島郡天城町兼久高約2337

Tel 0997(85)3125 Fax 0997(85)3129

新年のごあいさつ



代表取締役社長
田村 順一

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健康やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

ご挨拶が遅れましたが、私は昨年九月に弊社の代表取締役社長に就任致しました。微力ながら皆様と一緒に徳之島の発展に尽力致す所存でありますので、宜しくお願い致します。

さてここ数年、徳之島の農畜産業を巡る自然環境は厳しいものがありました。その中であつてサトウキビは農家の皆様並びに関係者のご尽力もあり、期待収穫量の7〜8割は確保できており、サトウキビは自然環境の厳しい南西諸島の経済を支える「中核作物」であると改めて認識致しました。

また近年、日本の国土の安全保障上、離島防衛の必要が求められております

が、離島に住まわれる方々の生活を支えるサトウキビは「国防作物」として国民に強く意識されるべき大事な作物であります。

このような重要な作物を取り扱わせて頂きます弊社の役員は、大きな誇りを持って日々の業務に勤しんでおります。また私共は引き続き農家、行政、農業協同組合の方々と一緒に、生産量の回復、産業の活性化に積極的に取り組んで参ります。

今年サトウキビの収穫見込み量の不足から、昨年に引き続き年明け後の製糖開始にならざるを得なくなりました。買入糖度が少しでも高まる方が農家の方にもプラスであることご理解を頂ければ幸いです。一方で春植推進期間を二週間設けさせて頂きました。新夏植に続き、春植に於いても生産量回復の足固めをして頂きたいと存じます。そして今年が異常気象にも耐えられる徳之島のサトウキビ産業再構築元年となれば、これ程喜ばしいことはありません。

末尾となりましたが、今年一年、皆様が無事に農作業を営まれますよう、また健康で幸多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。



平成25／26年 サトウキビ展望



徳之島事業本部長
岩淵 達夫

明けましておめでとうございます。皆様には健康やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

24／25年度のサトウキビ生産量は大型台風の影響により、約12万5千トンと前期の最低記録を更新する大不作となりました。24／25年

期操業終了後は次年度以降の生産量回復を目指し、特に夏植の推進を図りその立て直しに取り組んで参りました。その結果、夏植につきましては、目標の5500トンを超え、約10000トンを超える約65000トン達成することができました。これで、26／27年収穫量は3月内対象の増産基金を活用した春植を9000トン以上行うことにより、収穫面積は370

今期の製糖計画

キビ処理見込量	15万4,788ト	
製糖開始日	平成26年1月9日(木)	
工場休止日	洗缶日	平成26年2月5日(水)
	春植推進日	平成26年3月4日(火) ～17日(月)
キビ搬入終了予定	平成26年4月6日(日)	

0トン以上が見込め、単収次第では20万トン台も見えてきます。

また、農水省からは今期の交付金単価について、対前年比320円/トン増額、更に増額が発表されています。

このように「政策による価格安定」「製糖会社による全量買取り」「災害耐久性」等の特徴を有し、キビ代金の4倍の経済効果があると言われているサトウキビの生産量回復が、徳之島経済の発展・振興への近道と考えますので、全島挙げて生産量の早期回復に取り組んで参りたいと存じます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

生産量回復に向けて！ 業務部

1 夏植面積実績

当社では生産農家のご理解と関係機関の協力を頂き、来期（平成26/27年期）の収穫面積を3650鈔以上確保する取組を展開致しています。その第一段として、去年の夏植では、生産農家の努力の結果、植付け目標面積550鈔に対し648鈔（表-1）と素晴らしい実績を挙げるこ

2 春植面積 拡大対策

今年の春植は「980鈔以上の植付目標」を掲げ取組んでおり、春植に対しても夏植同様、国から植付費用の支援（種苗助成）が予定されています。支援の内容や金額については現在調整中ですが、内容の詳細が決まり次第、生産農家の皆さんには広報紙等でお知らせする予定になって

います。また、当社では生産農家の皆さんが適期に春植々付ができるように、3月に二工場を二週間停止した「春植推進期間」を設定いたします。

3 適期肥培 管理について

徳之島のサトウキビの95%近くがハーベスターによって収穫されます。収穫後の株出管理作業は早めに行い、雑草や病害虫に負けないサトウキビを育て、儲かるサトウキビを生産農家になりましょう。今春も「サトウキビ増産基



平成26/27年期夏植実績

表-1

	計画面積 (ha)	植付実績 (ha)	昨年実績 (ha)	計画対比 (%)	昨年対比 (%)
徳之島町	200.0	234.6	122.28	117.3%	191.9%
天城町	150.0	168.1	68.15	112.1%	246.7%
伊仙町	200.0	245.1	96.52	122.6%	253.9%
合計	550.0	647.8	286.95	117.8%	225.8%

金（甘味資源作物増産緊急対策事業）によるメイチュウ類防除剤（オンコロOK粒剤）がサトウキビ生産農家に配布されますので、農家の一斉防除により、メイチュウ類の生息数を減らし、健全なサトウキビ作りに取組みましょう。来期製糖期へ向けた取組は既に始まっています。収穫面積「3650鈔以上」を確保し、来期こそは「収穫、管理作業に余裕の持てる製糖期間」を確保しましょう。

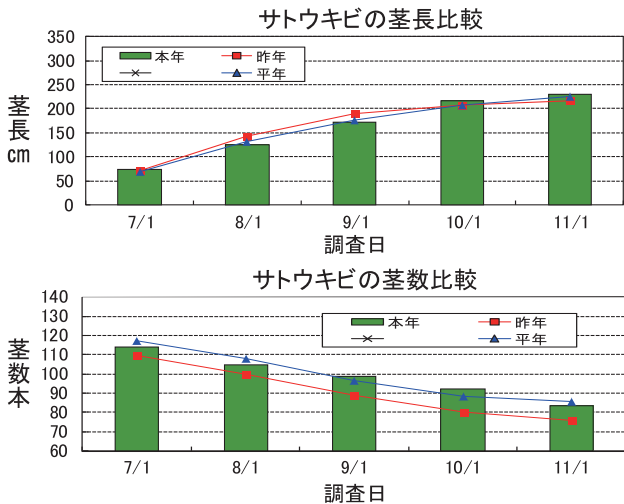
4 今期の生育状況

各町糖業部会の調査によりますと、今期収穫予定のサトウキビの伸びを示す茎長は、三作（夏植、春植、株出）平均で230cmと、昨年より4・6cm（102・0%）、昨年より13・9cm（106・4%）と長く、良好に推移しています。

また、サトウキビの本数を示す茎数も、平年に比べると10㎡あたり2・3本少ない（97・3%）ですが、度重なる台風に見舞われた昨年と比べると7・4本多く（109・7%）なっています。

5 さとうきび 栽培基準

昨年3月に徳之島さとうきび生産対策本部では、単収の高い農家の皆様の分析をして「さとうきび栽培基準」のポスターを作成し各家庭に配布してありますので、単収向上の参考にしてください。



【収量確保のためのポイント】

- ①適期・適切な植付け、管理作業を行いましょう！
- ②芽をしっかりと出させて、茎数を確保しましょう！
- ③ほ場内・畦畔に雑草を生やさないようにしましょう！
- ④ほ場の見回りを行い、害虫被害を未然に防ぎましょう！
- ⑤品種の特性に合わせて植付けよう！

「さとうきび栽培基準」より抜粋

「サトウキビ産業の将来について」講演

昨年の10月31日から11月1日にかけて精糖工業会会長の久野修慈氏が四年ぶりに来島されました。久野会長は、永年サトウキビ産業の発展にご尽力されてきており、今話題となつている日本農業の今後を大きく左右するTPP交渉においても国会議員、交渉国との対応に奔走、その重要性を訴え、サトウキビ産業を守る活動を続けておられます。

そういう中で、今回、島内のサトウキビの生育状況を視察、また、行政・JA・弊社に向けて、「サトウキビ産業の将来について」講演を行いました。講演の中で、日本の食糧問題について触れ、日本の農業政策には、より具体的な政策が必要であり、その為には、将来の食を守る若手農家の育成が国家的に必要であることを何度となく強調されたのが印象的でした。

意見交換会では、地元町長から、「徳之島は台風の襲来を避けられない地域にあり、台風が来ても何とか収量が見込めるサトウキビは貴重な作物。これまでもいろいろな作

物を試してきたがこれに代わる作物はない。奄美・沖縄におけるサトウキビは防衛作物、無くなれば人口が減り、ゆくゆくは住む人がいなくなってしまう。外国からの侵略に備える意味でも重要である。」と、難航しているTPP交渉を見据えて基幹作物であるサトウキビの重要性を訴えました。

若手のサトウキビ生産農家（新ジャンプ会・ハーベスター連絡協議会）との懇談会では、「世界全体の生活が豊かになれば自然に砂糖の消費も増えていく。その時に国内に



若手サトウキビ生産農家との懇談会

砂糖を供給できる地域がなければならぬ。」と、将来的にも、日本国内には安定した砂糖供給地が必要であると述べ、若手農家を激励しました。

台風、干ばつ、病害虫の発生などでここ二、三年思うようなサトウキビ栽培が出来ずに不安を抱えながらの農業経営が続き、元気を無くしかけていた若手農家も、久野会長から今後とも国に対して増産に向けた多様な政策を取るよう働きかけていくことや、「TPP交渉により砂糖の生産地が無くならないように絶対に守り抜く。」との発言に安心してサトウキビ作りが出来ることを再確認し、生産意欲が高まった一日となりました。



行政・JA・南西糖業との意見交換会

まずは畑にいくことが好きになることです

徳之島町下久志 池田 健久氏

池田健久さん（58歳）は徳之島さとうきび新ジャンプ会のメンバーであり、下久志と井之川、そして神之嶺地区の担当員としても活躍されています。サトウキビは自営圃場で8畝を栽培しています。農業機械はハーベスター1台とトラクター4台を所有し、受託作業も行っています。

均等に3分割することで管理作業が重複しないようにしています。また、植付け前には必ず石灰の全面散布をしています。肥料も3回に分けて投入します。」

「一番大切なことは絶対に草を生やさないことです。人を雇ってでも早期に対応します。」

Q：趣味は何でしょうか？

「海遊びです。夜光貝や魚が捕れます」

Q：今年の作柄はどうでしょうか？

「二昨年の台風被害の為に種苗が悪く心配していた春植も分けつが良いです。来年収穫の夏植面積も増えているので楽しみです。」

Q：サトウキビのお気に入り品種は何ですか？

「私の圃場には農林22号が合っているようです。とても芽立ちが良く、3番株も取れます。」

Q：どのような管理をされていますか？

「圃場は春植、夏植、株出と

Q：若手農家へメッセージをお願いします。

「まずは畑にいくことが好きになる事です。サトウキビ作りは楽しいですよ。」

「そして早く家族を持つ事です。やりがいがあり、一生懸命働くことが出来ます。」

「たいへん貴重なお話を伺うことが出来ました。」



新春企画

『午（馬）』にまつわる島の伝説

徳之島北端の手々（てて）集落の山手にカンギョウ（神川）グスクという聖なる森があります。

ここはかつて、羽の生えた馬に神様が乗ってやって来た場所と言い伝えられ、人々は「木の枝一本たりとも損傷すれば、必ず天罰が下る」として畏れ、この森を守り続けてきました。

森の中央には、集落にある三つの川の川神（コウガミ）様と、手々集落の英雄と伝えられる、掟大八目（おきてふうはちめ）と弓の名手政勝（まさかつ）の二人が合祀された、豊穀神社が建っています。

集落の人々は今でも集落の守り神として、五穀豊穡と一家の幸せを祈願し、季節ごとのお祭りや清掃活動を欠かさず行っています。「羽の生えた空飛ぶ馬」といえば、ギリシヤ神話に出てくるペガサスが一般的に知られています。

「ヘガサス」という呼称はもともと、古代ギリシヤ語で「泉」や「水源」を意味する

もので、ギリシヤ神話でも、ペガサスと水の深い関わり合いを示すエピソードがいくつかに伝えられています。

水は人間の暮らしや万物の営みに必要不可欠であり、古くから農業を基幹とした自給自足の暮らしを営む島の人々にとつて、最も重要な天の恵みと考えてきたことによる伝説かもしれません。



豊穀神社の参道と社

境内にはヒカンザクラの大木があり早春にはお花見も楽しめます

新役員体制

弊社定時株主総会（平成25年11月22日開催）において左記のとおり役員が選任され、それぞれ就任致しました。

- | | |
|-----------------|-------|
| 代表取締役社長 | 田村 順一 |
| 常務取締役（徳之島事業本部長） | 岩淵 達夫 |
| 常務取締役 | 宗宮 暢一 |
| 常務取締役 | 柴崎不二男 |
| 取締役（業務部長） | 橋口 英文 |
| 取締役（工務部長） | 加 和朗 |
| 取締役（非常勤） | 金子 勇人 |
| 監査役（非常勤） | 田中 敬明 |
| 監査役（非常勤） | 多田 啓一 |
| 取締役 | 當好 二 |
| 取締役 | 平田 昭夫 |
- 当好二、取締役平田昭夫は、本総会をもって退任いたしました。在任中賜りましたご芳情に対し、厚くお礼申し上げます。



【新役員自己紹介】
取締役（工務部長） 加 和朗



昭和56年に入社以来、平土野工場を含む島内三工場での勤務と工務部での勤務を経験し、この度取締役に就任致しました。

前任の伊仙工場におきましては、農家の皆様ならびに関

係機関のご支援ご協力により夏植目標面積を達成することが出来ましたことに、改めて感謝申し上げます。

会社を取り巻く環境は、厳しい状況が続いておりますが、地域ぐるみの増産活動と、従業員の実行力で難局を乗り切ることができると信じております。

工場では、農家の皆様の汗の結晶であるサトウキビから砂糖を一粒でも多く回収することに全力投球してまいります。

これまで同様のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

徳之島の自然図鑑
『いのちつながる徳之島』発行される

徳之島のサトウキビ産業と深い関わりがある三井製糖株式会社は、企業の社会貢献活動の一環として、徳之島の生物多様性保全の取組みを支援しています。

奄美・琉球世界自然遺産登録に向けての取組みが進展する中で、徳之島の多様で豊かな自然を、より多くの人々に知ってもらいたいとの思いから、写真展の開催と本の編集作業を進めてきたNPO法人

徳之島虹の会は、この支援のもとに、島人が撮影した自然の風景や珍しい動植物の写真を集め『いのちつながる徳之島』の図鑑を発行しました。

この本は島内並びに日本全国の書店やインターネットで発売され、話題を呼んでいます。

